

令和5年度 後期

# 政務調査研究報告

飯田市議会公明党

報告者 永井一英

## 後期視察先一覧

月日	視察先	視察内容
令和5年 11月6日	北海道音更町 音更町役場	廃校をビジネス拠点へ「昭和商学校 Palette:パレット」の取り組みから地域資源 活用方法を学ぶ
11月7日	石狩市 石狩市役所	2022年、環境省から脱炭素先行地域と選定 された石狩市の再エネの取り組みを学ぶ
11月8日	当別町 とうべつ学園	当別町で進める小中一貫教育に学ぶ
令和6年 1月25日	神奈川県横須賀市 横須賀市役所	単身高齢者が増加する中、終活支援を先駆けて 始めた横須賀市の取り組みを学ぶ
1月25日	東京都練馬区 練馬区役所	地域コミュニティ維持へ、練馬区町会・自治会 のデジタル活用の取り組みを学ぶ
1月26日	東京都世田谷区 国立成育医療センター 内「もみじの家」	医療的ケア児をどう支えるのか、飯田市の現 状と向き合う中、その先進地へ伺い現場目線 の課題対応を学ぶ

## 視察先・調査事項

### 1. 当別町で進める小中一貫教育の取組み

日時 令和5年11月8日 9時30分～11時30分

場所 北海道 当別町

説明 学校教育課 参事 川村 秀夫 氏、高橋 侑己 氏

### 2. 医療的ケア児支援の取組み

日時 令和6年1月26日 9時00分～11時00分

場所 国立成育医療研究センター もみじの家  
(東京都世田谷区)

説明 ハウスマネージャー 内多 勝康 氏

## 当別町で進める小中一貫教育の取組み

～小中一貫校「とうべつ学園」 令和4年4月開校～



当別町議会  
議長 高谷茂氏

教育委員会学校教育課  
参事 川村秀夫氏



## 北海道 当別町の概要

○ 面積  
 > 422.86平方キロメートル

○ 人口 (R5.5.1現在)  
 > 15,360人

○ 財政規模 (R5年度一般会計)  
 > 134億422万1千円  
 うち教育費 9億5千565万1千円  
 (約7%)

○ 地理  
 札幌市から北に約30km。  
 JR札幌駅から普通列車で最短37分  
 道内では比較的穏やかな気候。農業(稲作、花卉)が盛ん。

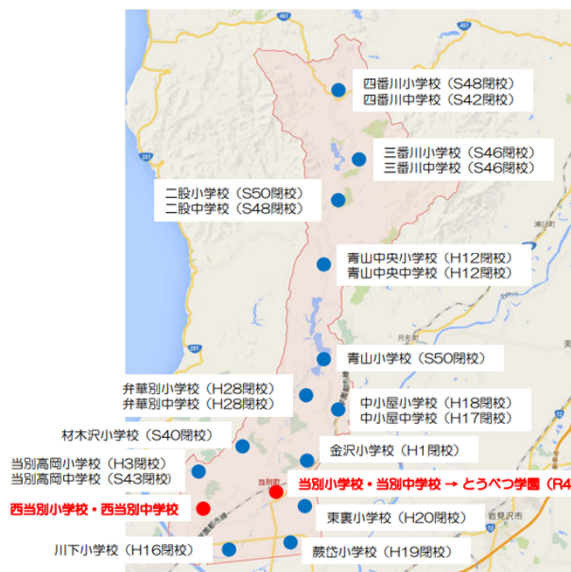
○ 沿革  
 明治5年 伊達邦直公が当別の地に移住、当別村とする  
 昭和22年 町制施行 **【令和2年に150年を迎えました】**

○ 町内の主な学校  
 > 北海道医療大学(私立)  
 (歯学部、薬学部、看護福祉学部、リハビリテーション科学部)  
 > 当別高等学校(道立 普通科、家政科、園芸デザイン科)  
 > 町立学校  
 とうべつ学園、西当別小学校、西当別中学校  
 > 認定こども園  
 認定こども園 当別夢の国幼稚園(私立)  
 認定こども園 おとぎのくに(私立)



札幌から40分。北欧が薫る町。

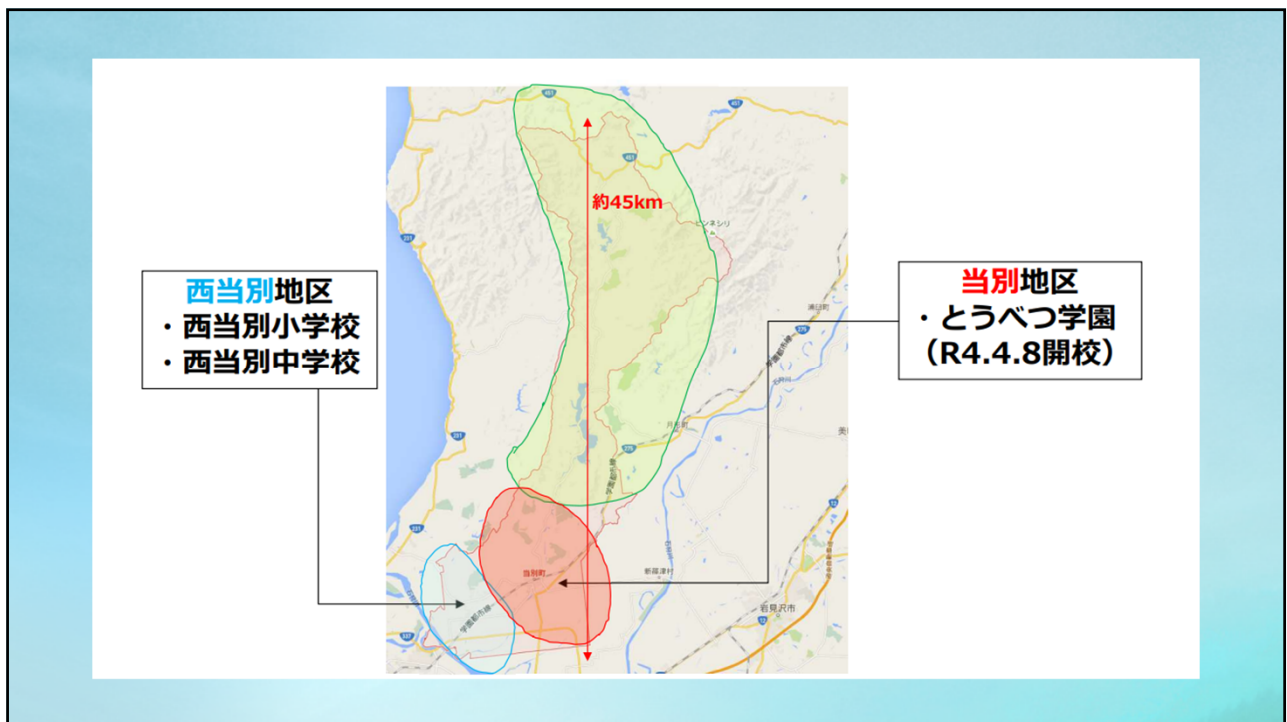
## 当別町内の小中学校 (統合校)



昭和40年  
 小学校15校  
 中学校9校

平成28年  
 小学校2校  
 中学校2校

令和4年  
 義務教育学校1校  
 小学校1校  
 中学校1校



## 感想・まとめ 1

○座学での説明の冒頭、川村教諭から、何故「とうべつ学園」への視察が多いのかに触れながら、

- ・「北海道の中で、400人近い児童生徒の規模で小中一貫校を新しく建てたのは「とうべつ学園」のみ。外にも義務教育学校はあるが、子どもが少なくなったという理由で移行した。しかし、「とうべつ学園」は違う」との発言。

○説明終了時には、児童・生徒に学力をつけさせたいという強い思いが理解できた。

## 当別町の教育

### 教育理念

9年間の切れ目のない教育により、徹底した基礎学力の定着、自らの夢や目標を自らの力で切り拓いていける力、世界で活躍するためのツールとしての英語力、部活動等による強い心と体など、世界に通用する人となるための確固たる基礎をつくる。

また、その学びは「連続性のある多様な学び」であり、特別な支援を要する子ども達も共に成長できる教育である。

### めざす人間像

社会を背負う、世界にも通用する「知・徳・体」を備えた人



## 当別町の教育

### つけさせたい力とめざす児童生徒像

#### 1 基礎基本に基づく発展的学力、自ら学ぶ意欲

・夢や希望を実現するため努力し、行動できる子ども

#### 2 豊かな人間性

・自分を大切に人を大切に、未来に向かって行ける子ども

#### 3 健全な心身

・全ての基盤となる強い心と体を持った子ども

#### 4 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力

・自分で考え、自分の言葉で伝え、相手の意見に耳を傾け、人間関係を築ける子ども

#### 5 当別が好きな子ども

・当別に誇りを持ち、どこにいても当別を応援する子ども

どうべつ  
未来学





## 感想・まとめ 2

- 「とうべつ学園」を建設する発端となった、当別町長 **宮司正毅**（みやじまさき）氏は、当別町議会議員から立候補し平成25年（2013年）7月の町長選で初当選
- 8月2日の初登庁挨拶の中で、「私は平成12年に初めてこの地に足を踏み入れ、平成17年にこの町に居を構えました。…私は商社に長い間勤務して、世界中を飛び回っていましたから、色々な土地柄の町をつぶさに見て参りましたが、この当別町を選んだのです。…」
- 宮司氏の経歴を、高谷議長からお聞きし、当別町が進める小中一貫教育の方向性が理解できた。

## 当別町で進める「小中一貫教育」 1

### 小中一貫教育 の目的

- 「発達段階を考慮し、義務教育9年間を見通した教育課程の構築」と「小・中学校教員それぞれが、義務教育9年間で児童生徒を育てる」という考えの下、小中一貫教育を実践していくことで、指導の効果を高め、社会で自立して生きていく上で必要な学力や体力、望ましい生活習慣や規範意識を確実に身につけさせる。
- 家庭や地域と連携して、組織的・継続的な学校支援体制をつくることで、「家庭」、「地域」、さらに「学校」の教育力を高め、地域全体で子どもたちの9年間の学びを支えるまちづくりを実践する。

「当別町小中一貫教育に関する取組基本方針」H27.3



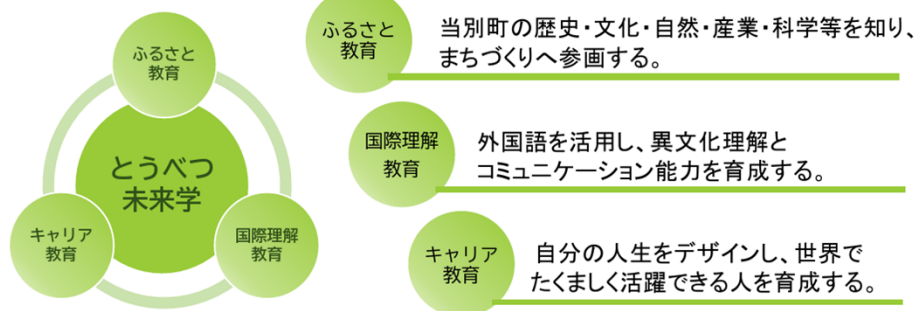
## 当別町で進める「小中一貫教育」 2

### 教科等横断的な学習 「とうべつ未来学」



ふるさと当別を知り、とうべつの未来について考え、  
様々な方法で発信する力を育てる。

「とうべつ未来学」3つの柱



## 当別町で進める「小中一貫教育」 3

### ドリカムプロジェクト

小・中学校で家庭学習の方法や板書の仕方など、統一性のある学習規律の定着を図っています



### 児童の中学校登校

中学校生活への不安解消と中学校教員による専門的な指導に触れることを目的として、6年生の中学校登校を実施しています。中学校登校にあわせ、部活動体験を実施しています。



### 中学校教員による授業

中学校教員が小学校に出向き、専科制（教科担任制）を意識した授業を行っています。意図的・計画的に段階的な接続を目指しています。



## 当別町で進める「小中一貫教育」 4

### 小中交流事業の実施「小中合同 いじめ撲滅宣言」

小学校5・6年生が中学校に登校し、中学生と一緒に「人としての生き方」をテーマとした講演を聞きます。  
後半は、児童会・生徒会が共同で企画運営し、小中学校で行われているいじめ防止に向けた活動の紹介や「いじめ撲滅宣言」を採択するなど、小中合同の学びや活動を展開しています。



### 「スポーツフェスティバル」

小学校運動会に代わり、「主体的・対話的で深い学び」を意識しながら企画しました。小学生自身が考えて行動する様子や中学生・地域の方が参加するなど、一体型義務教育学校を見据えての行事としました。

### 「部活動体験会」

小学生の中学校登校に合わせ、中学生が部活動の紹介と体験活動の指導を行っています。小学生が中学入学後に入りたい部活への展望を持つことにつながっています。



## 当別町内の小中学校（西当別地区） 施設併設型

### 西当別小学校



開校 昭和26年4月  
児童数 213人  
学級数 12(含:特3)学級

### 西当別中学校



開校 昭和22年4月  
生徒数 137人  
学級数 7(含:特2)学級

※ 児童生徒数等は、令和5年5月1日現在

## とうべつ学園～概況

当別町内の小中学校（当別地区）

施設一体型

### とうべつ学園



学年	児童生徒数	学級数				
特別支援学級 (前期課程)	12	4				
1年	43	2				
2年	41	2				
3年	40	2				
4年	44	2				
5年	49	2				
6年	41	2				
特別支援学級 (後期課程)	5	3				
7年	44	2				
8年	53	2				
9年	60	2				
計	432名 (前期課程200名) (後期課程162名)	25学級 (前期課程14学級) (後期課程9学級)				
校長	教頭	主幹 教諭	前期 課程 教諭	後期 課程 教諭	費課 教諭	栄養 教諭
1	2	1	25	18	2	1
事務 職員	学力向上 推進講師	特別 支援教育 支援員	特別 支援教育 介助員	学校 管理員	事務 嘱託員	学校 管理人
2	2	3	1	1	2	2

※ 児童生徒数等は、令和5年5月1日現在



当別中学校跡地に建設





教育委員会学校教育課  
参事 川村秀夫氏

当別町議会  
議長 高谷茂氏



「とうべつ学園」の廊下、ステップテラスが広いのは、全てが学習スペース。廊下は歩くスペースだけでは無い。Wi-FiがどこでもOK



永井：各教室に戸がない。外の教室や異学年にうるさげないか  
 川村教諭：始めはそういうこともあるが、段々子ども自身で静かにしようということになっていく。9年生が受験のための試験を行なっている場合も、下級生が気を使えるようになる

## 「とうべつ学園」の教育 1

### 教育目標

#### 夢と志を持ち 希望に満ちた未来を拓く

- ・ 高い志と確かな学力をはぐくむ (知)
- ・ 思いやりの心と豊かな人間性をはぐくむ (徳)
- ・ たくましい身体と心をはぐくむ (体)

前期課程 (1~6年生)		後期課程 (7~9年生)	
(小1 小2 小3 小4)	(小5 小6 中1)	(中2 中3)	
基礎期 (1~4年)	充実期 (5~7年)	発展期 (8~9年)	
学びの基礎をつくる時期	学びを広げる時期	自分らしい学びを深める時期	
繰り返し学習や具体的な操作活動を通して、義務教育で学ぶ基礎・基本を身につけられるようになります。	学んだ基礎をもとに論理的な思考力や物事を適切に判断する力を身に付けさせます。	学習した内容を自分の生き方と関連づけて考え、社会の中でよりよく生きることができる自信を育みます。	
<指導形態> 45分授業 ○学級担任制	<指導形態> 50分授業 ○5・6年：一部教科担任制 ○7年：教科担任制	<指導形態> 50分授業 ○教科担任制	



## 「とうべつ学園の教育」

2

### ◆特色ある教育活動◆

- ①系統性・連続性を踏まえた生活・学習指導  
～教育的ニーズに応じたきめ細かな指導・特別支援教育の充実～
- ②日常的な異学年交流活動
- ③5年生からの一部教科担任制
- ④「とうべつ未来学」の実施(全学年)
- ⑤5年生からの児童生徒会活動の実施
- ⑥ブロック(基礎期・充実期・発展期)ごとの集会の実施
- ⑦5年生からの部活動参加

校務運営組織に  
「支援教育部」を新設



## 感想・まとめ 3

### ○なぜ施設一体型は小中一貫教育が進みやすいのか？

・「当別町は令和4年度から、併設型、一体型のダブルスタンダードで取り組んでいるが、西当別地区では分離型なので、体育のみ実施。一体型では、小学校5年生以上を対象とし、体育、音楽、図工、家庭、英語にまでが小中一貫教育の対象となり、今後4年生も対象にしたいと考えている」

◎実際の現場の取組みとして理解できた

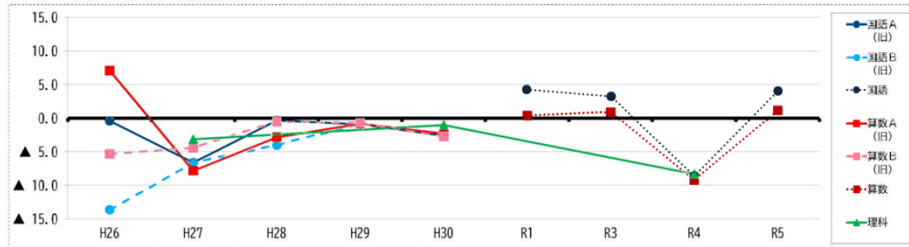
### ○教科担任制についてどう考えるか？

・小学校において一人の先生が児童に関わっていく意義は、日常生活における指導などで児童と関わる、人間関係の中で子どもが成長していくという面にある。しかし、働き方改革という視点と、子どもの学習定着という面で、教科担任制は制度として良い」

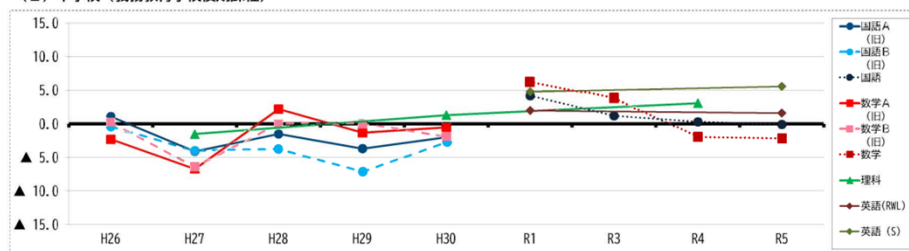
◎川村教諭の話は興味深い

## 学力調査の状況 経年変化

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）



(2) 中学校（義務教育学校後期課程）



## 結果概要

・ 小学校の全科目（国語・算数）及び中学校の英語（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）で全国平均を上回り、中学校の国語においては全国平均との差が0.1と僅差になりました。

・ **中学校の英語（話すこと）**は、設問の難易度が高く、正答率の全国平均が12.4%に留まりましたが、当別町においては、正答率が全国平均を5.6ポイント上回る結果となりました。

・ 領域ごとの正答率は、小学校の9領域中8領域及び中学校の15領域中6領域で、全国平均を上回っています。また、全国と比較して正答率が特に高い（105以上）領域は、小学校国語の「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、小学校算数の「図形」、中学校国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び中学校英語の「書くこと」「話すこと【やり取り】」となっています。

・ 領域ごとの無解答率は、小学校の9領域中7領域及び中学校の15領域中8領域で、全国平均を下回っており、無解答者が少なくなっています。

・ 小学校の全科目（国語・算数）及び中学校の英語（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）で、全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合が、全国平均と比較して少なくなっていることから、学力に課題のある児童生徒が、全国平均と比較して減少傾向となっています。

・ 小学校の全科目及び中学校の英語（話すこと）で、前回実施時より正答率が上昇しています。

**川村教諭**：令和5年度は全国平均を大きく超えてきた。特に英語、話す聴くの全国正答率は12%だったが、大きく上回っている。英検3級レベルの数値も上回っている。当別町として教科担任制など小中一貫教育の成果だと考えている

## 感想・まとめ 4

- 「とうべつ学園」ができてから子育て世代が町外から学園の近くに移住してきた。
- 当別町の社会増は、令和3年度1329人、令和4年度2167人
- 令和4年4月、「とうべつ学園」の町民向け説明会を開催したおり、札幌市から多くの参加者があった。
- ◎やはりターン政策に教育環境は大きな影響を与えると感じた。

## 医療的ケア児支援の取り組み

～ 国立成育医療研究センター内「もみじの家」～

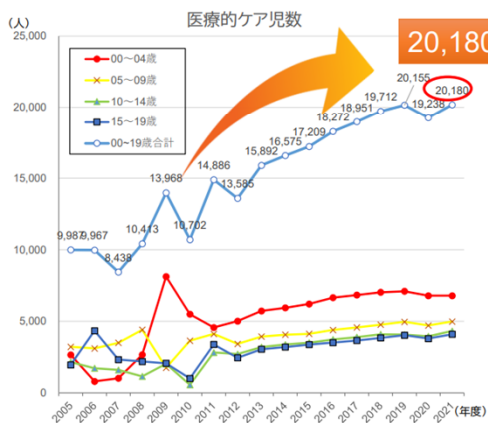
「もみじの家」ハウスマネージャー  
兼  
世田谷区医療的ケア支援センター  
広報マネージャー 内田勝康 氏



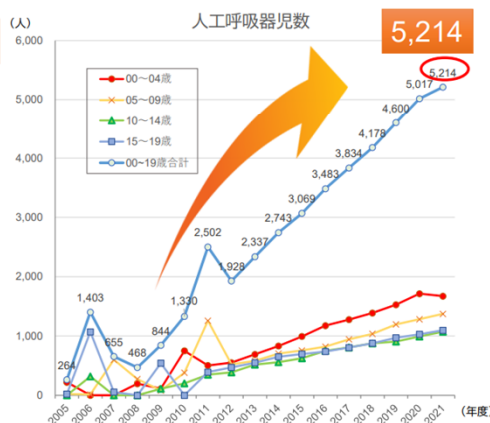
## 年齢階級別の医療的ケア児数と人工呼吸器児数の推移

- 医療的ケア児数は、2008年から2倍に増加している。
- 人工呼吸器児数は、2008年から10倍に増加している。
- いずれの年齢階級でも増加傾向にあり、しかも低年齢階級ほど人数が多くなっている。

■ 年齢階級別の医療的ケア児数の年次推移



■ 年齢階級別の人工呼吸器を必要とする子どもの数の年次推移



平成30年度厚生労働科学研究「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究（田村明）の推計方法による

## 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

### 沿革・組織

創 設：平成14年3月1日  
 所 在 地：東京都世田谷区  
 主な組織：研究所、臨床研究センター、病院  
 役員員数（常勤）：1,361名（令和3年4月1日現在）  
 病 床 数：490床



### 設置目的

我が国の成育医療の中核的機関として、小児・周産期・産科・母性・父性医療など 関連・境界領域を包括する成育医療についての研究、調査、医療技術の開発、医療の提供及び医療従事者の研修等を行う。



### 特徴

#### ○成育医療（小児科・産科領域）における高度先駆的医療やモデル医療の提供

- ・小児難病に対する集学的医療
- ・移植医療及び胎児治療の推進と普及
- ・小児ICU等を活用した24時間365日の受入体制により、救急車2,230名/年、小児専門搬送チーム出動回数は39回/年
- ・年間2,046件の分娩件数
- ・肝移植56/年（生存率100%）、手術件数月平均 259.3件
- ・虐待等を含めた小児のこころのケア

#### ○成育医療を発展させる先端的研究の推進

- ・希少疾患・難病の病因解明と診断法の開発
- ・小児難病に対する遺伝子治療の開発
- ・iPS細胞、ES細胞を用いた再生医療の推進
- ・妊娠と薬の情報提供や子どもの事故防止プログラムの提供
- ・小児医薬品に関わる小児治験ネットワーク活動の推進





## ●もみじの家



もみじの家

### 理念

重い病気を持つ子どもと家族のひとり一人が  
その人らしく生きることができる社会を創る

### ミッション

重い病気を持つ子どもと家族に対する  
新しい支援の仕組みを研究開発し、全国に広める



## 施設概要

もみじの家

- ・対象年齢：19歳未満
- ・ベッド数11（個室5、三人室2）
- ・ケアスタッフ
  - <常勤>
    - ・看護師 16名
    - ・保育士 2名
    - ・介護福祉士 1名
  - <病院本体との兼任>
    - ・医師
    - ・リハビリスタッフ
    - ・ソーシャルワーカー
    - ・薬剤師
- ・利用期間（原則、毎月利用可）  
1回最長9泊10日



もみじの家では、24時間、看護師が医療的ケアを行います



さらに、日中活動、生活介助でも手厚いケアを提供しています

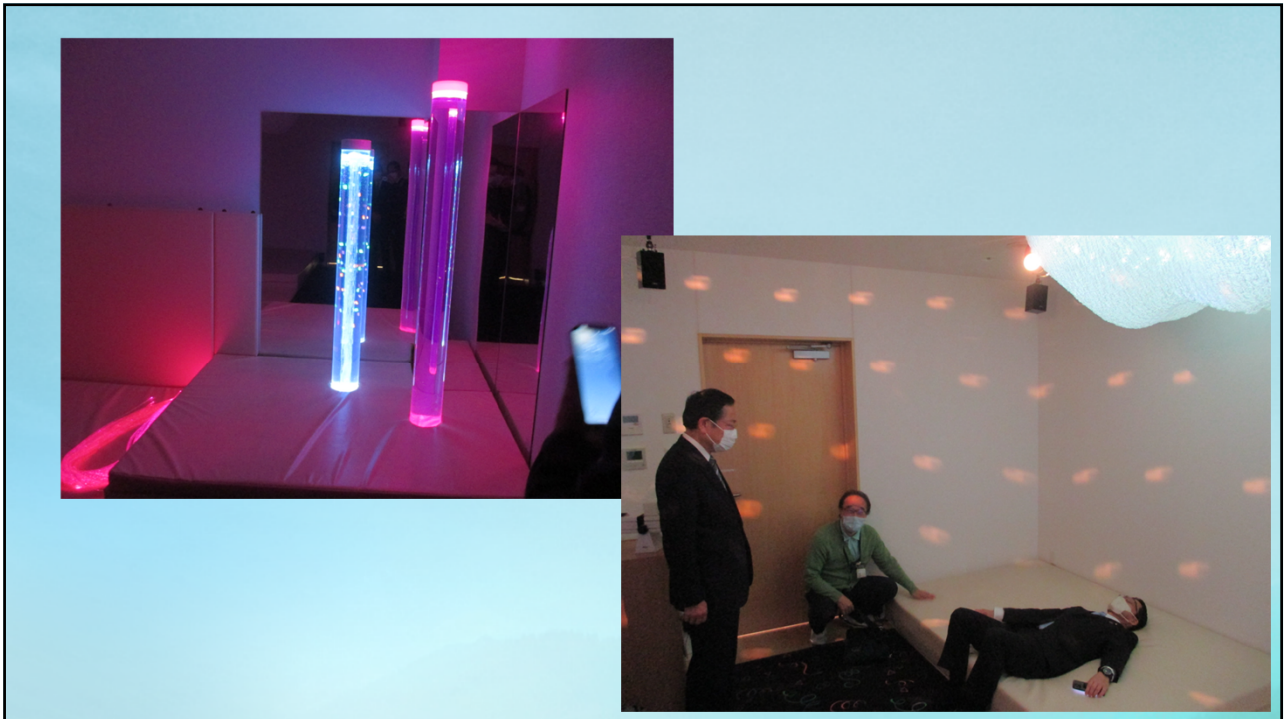
## 保育士のコーディネートと看護師の支援による日中活動 会場



## 感想・まとめ 1

- 常勤ケアスタッフの中に保育士2人が入っている。遊び・学び（保育・教育）の場を提供している。
  - 入所させた親から、「子どもが楽しく参加し、表情が柔らかくなった」との声が上がっている。
  - 状態が違う一人ひとりの医療的ケア児に、一人ひとり看護師が付いて、その子に合った支援やケアを行なったいた。
  - 取り組み始めた当初は、事業として認められなかったが、途中から法律改正により、加算されるようになった事業
- 飯伊地域においてもここまでできるだろうかと考えてしまった。





## 小児緩和ケア病床の実績（2018年9月～）

専門的な緩和ケアを受けながら最期の時間を過ごすための病床  
病気の種類を問わず受け入れ、苦痛症状の緩和を行う  
家族一緒に宿泊ができ、その子らしく過ごせるように支援  
面会も自由で、希望に応じて外出や外泊も可能

### 【利用状況】（2021年までの実績）

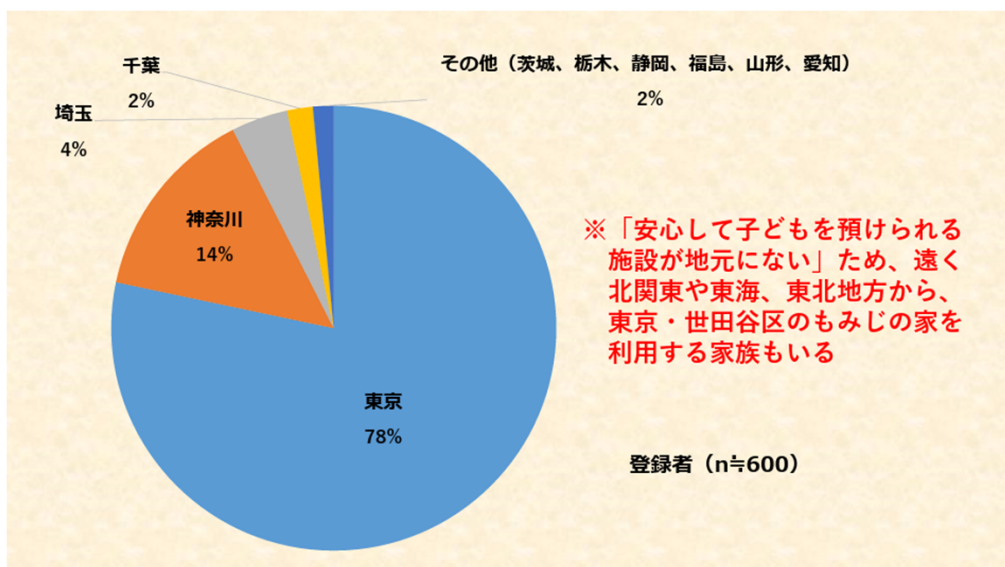
- ・ 4歳（女） 乳児発症性STING関連血管炎 （利用開始）2018/9/18
- ・ 14歳（男） リンパ芽球性リンパ腫 （利用開始）2019/7/9
- ・ 3か月（女） 18トリソミー （利用開始）2020/9/15
- ・ 1歳（女） 髄芽腫、低酸素性脳症 （利用開始）2021/9/27
- ・ 14歳（男） 神経芽腫 （利用開始）2021/12/13



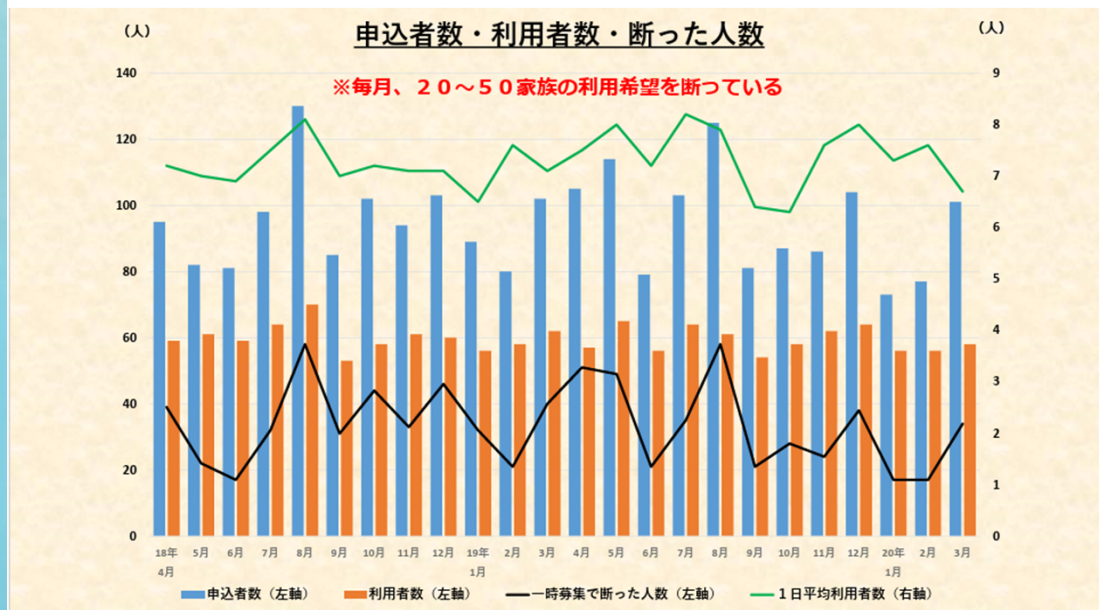




## ●登録者の実態







**もみじの家** 利用者満足度調査結果  
 (※回答者は母親が中心/初回利用者のみ)  
 項目別5段階評価

※もみじの家のサービスの量と質は  
 家族のニーズにマッチしている

2018年4月～19年3月 (アンケート総数=50)	平均値
施設入所日の手続き	4.6
スタッフの態度、言葉遣い、ケアの姿勢	4.8
医療的ケアの提供	4.7
生活介助 (入浴、排せつ、食事の介助など)	4.6
遊び・学び (保育・教育) の提供	4.6
施設の設備 (家具、トイレ、風呂など)	4.7
利用料金	4.3
また、もみじの家を使いたいと思うか?	4.8

## 感想・まとめ 2 「もみじの家」の経営

○もみじの家に入ると右側の壁に、折り紙を大小様々な大きさに切った紅葉の葉っぱが貼ってある。葉っぱには寄付をしてくれた人や会社の名前が書いてある。

○座学において内田氏から、「もみじの家の経営は楽ではない」との発言があった。障害福祉サービス費のあり方を考えさせられた。



ご清聴ありがとうございました



マスコット犬  
さんちゃん